

紙及び板紙－吸水度試験方法－クレム法 解説

訂正票

位置	誤	正
解説 2.2	<p>国際規格 ISO 8787 : 1986 には、試験片の長さが足りないときの具体的なつなぎ方について規定されていないため、6. 試験片の採取及び調製に “b) 備考 200 mm 以上の長さの試験片を採取できない場合は、可能な限りの長さを取り、紙の断面同士をすき間がないように密着させて、吸水性がなく、かつ、疎水性のフィルムなどの材料を裏当てしてステープラでつなぎ、必要長さを確保する。”と規定した。</p> <p>参考として解説図 1に試験片のつなぎ方の一例を示すとともに、つなぎ目あり及びつなぎ目なしの試験片の測定結果を解説表 1に示す。</p>	<p>改正前の JIS P 8141 : 1996 では、国際規格 ISO 8787 : 1986 “6 Sampling and preparation of test pieces” の “NOTE” の翻訳として、4. 試験片(3)に “200 mm 以上の長さの試験片を採取できない場合は、可能な限りの長さを取り、紙の物理構造が変化しないような方法でつなぎ、必要長さを確保する。”と規定した。しかし、“NOTE” の英文の解釈としては、“紙同士をつないで、200 mm 以上の長さの試験片を確保する。”ではなく、“紙を（紙以外の）支持体につなぎ、つり下げのための必要長さを確保する。”が適切と判断した。そこで、“NOTE” を 6. 試験片の採取及び調製に “b) 備考 200 mm 以上の長さの試験片を採取できない場合は、可能な限りの長さを取り、水に対して不活性な支持体（疎水性のフィルムなど）にステープラでつなぐことが望ましい。”と翻訳して、記載した。</p>
解説図 1	解説図 1	(削除)
解説表 1	解説表 1	(削除)

訂正票とは、規格本体以外（解説ほか）に対する正誤を表します。

平成 18 年 9 月 1 日作成